

令和7年度 第4回用瀬地域振興未来会議 議事概要

【開催日時】

令和7年9月29日（月）午前10時00分～11時50分

【開催場所】

用瀬町総合支所 3階第1会議室

【参加者】

出席委員 西川功美、山下和彦、平井育子、寺崎健一、西尾とよ子、岸森孝弘、入江真知子
石井 敏、松本豪平、田中聡
以上10名（敬称略）

関係課 市選挙管理委員会事務局（有本局長、田淵局次長）

事務局 太田用瀬町総合支所長、岡本副支所長、浜部産業建設課長 安田市民福祉課長
遠藤地域振興課課長補佐

傍聴者 なし

【次第】

- 1 開会
- 2 会長・支所長あいさつ
- 3 議題・報告事項等
 - （1）支所管内における期日前投票所の投票期間の見直しについて（市選挙管理委員会）
 - （2）地域の重点課題検討
 - ・地域に根ざした特産品の開発と担い手育成・確保
 - ・空き家の有効活用（掘り起こしの調査結果について）
 - （3）その他
- 4 各課事務連絡
- 5 次回日程
- 6 閉会

3 議題・報告事項等

- （1）支所管内における期日前投票所の投票期間の見直しについて（市選挙管理委員会）

資料1により説明。

（委員）

期間短縮については、良い案と思う。

（委員）

期日前投票の立会人は、期間中ずっと同じ人がやっているのか。

(選挙管理委員会事務局)

支所ごとに状況が違うが、複数回しておられる人が多い。ただ長い選挙期間になると何度も出来なくなる方もおられ、確保が難しくなっている。

(委員)

投票所について、これから高齢社会がますます進む状況にあって、用瀬地区は高齢の方でも歩いていける距離にあるが、社地区・大村地区は難しくなってくる。

(委員)

資料を見ると、19 時台が一番 0 人が多い。投票期間の見直しだけでなく、時間もあわせて見直しされたら、立会人の確保もよりしやすいのでは。

(選挙管理委員会事務局)

同様の意見は他からもいただいている。

変更に肯定的なご意見をいただいているが、今回は投票期間の見直しを考えており、その他の見直しはまた少しずつ検討していきたい。

(2) 地域の重点課題検討

【地域に根ざした特産品の開発と担い手育成・確保】

(事務局)

資料 2 にそって、前回会議でのアンケート結果の説明と、地域の魅力を集めた映像の視聴、市と矢井田 瞳さんがコラボした「いつでもここで～みんなのための鳥取市のうた～」の紹介

(委員)

情報発信について。

町内の各事業所さんは、それぞれ SNS で情報発信しているが、支所で共通ワード#（ハッシュタグ）を作って周知してもらうなどしたら、用瀬の情報が集約されるのでは。町外の方が用瀬を調べる時に、まとまった情報源がないのは自分が用瀬に来た 20 年前から変わっていない。これだけ SNS が広がった時代になったので、ぜひいくつか共通ワードを作ってもらい活用していけたら。

(事務局)

鹿野町が「#うれしかの」という共通ワードを作っておられます。そういった感じで用瀬バージョンを考えてみます。

(委員)

宿泊について。

用瀬にはキャンプ場や宿泊所もあるが、情報が広がっておらず、溪流釣りや鮎釣りに来られる方に「泊まれる場所はないか？」とよく聞かれる。現在は鳥取市内や八東町の宿を紹介している。遠くは青森、岩手、ほかにも清流のある高知、多摩などからも来られる。車に二泊される方もいる。

用瀬町には観光協会が無いので、それに準ずるものを考えたら、情報を一本化して発信し
できるのでは。

(委員)

観光協会がないということに驚いている。やっぱり一つの窓口が無いと、情報が散って
しまい、地域に資源があっても利用されない。お土産品を作ろうと言っても、どういう組織
でそれを作り、販売していくのか具体的なものがないと話をして時間が無駄になる。

(委員)

鮎釣りで来られる方が、金屋橋を渡った先のスペースに車を何台も駐車して、ゴミ収集車
などが困る状況がある。せっかく遠くから用瀬に来ていただいているので、あまり苦情は言
いたくないが、改善する良い方法はないか。

(委員)

地元として警察にも相談して、地元での標識設置での対応としたところ。
来年度、悪質な場合は警察が対応してくれるとのこと。

(委員)

漁協が遊漁証を発行する時に、駐車についての注意を促すチラシなどを配ってもらって
はどうか。

(委員)

今年、支所で観光案内マップを作る予定と聞いているが、用瀬町民自体も町内のお店や美
味しいところを知らない方が多く、町外の方から聞かれても答えられない。

先ほどの話にもあったように、お店個々ではいろいろ発信しているが、用瀬全体のまと
めた力としてはまだ弱いと思うので、町民目線でも用瀬の全体のこととして発信していけた
ら良いと思う

(委員)

今はネットでの情報発信が主となりつつあるが、高齢の方にはそのツールを使いこなせ
ない方も多くいらっしゃる。そういった方にも情報が届く方法で発信して欲しい。

(委員)

町内事業者さんそれぞれで情報発信をしているが、情報があふれている社会の中では埋
もれてしまっている。やはり情報を一本化できるしくみやネットワークを作ったらつなが
っていただけるのではないか。

若い方はペーパーを見ないので、作るにしてもどこに届けたいのかをしっかり考えた方
が良い。

(委員)

情報発信の方法で、用瀬の「宿泊」「山」「遊び」「散策」など、目的別のキーワードで情
報をまとめてみてはどうか。

(委員)

観光協会の役割をどこが担っていいのか。

(会長)

それが問題だがすぐに結論がでることではないので、時間をかけて議論していく。

(委員)

Future Seeds Mochigase (フューチャー シーズ モチガセ) という団体を、9月20日に立ち上げた。

地域の課題は意見として出るが、誰がそれを解決するのか、自治＝地域住民が大前提と考えて、まずは10人でスタートした。任意団体会費などは徴収していない。これからの用瀬町を支えていく世代として、30代から40代のメンバーが多く入ってくれた。

流しびなもそうだが「守っていく」という思いが無いと続いていかない。その思いを町民が持っているか。活動を発信していったら、賛同してくれる人も出てきてくれるのでは。この魅力を伝えて行きたい！と思った時にフットワーク軽く動けるチームがあったら良いなという思いで作った。

まずはハーブ園を作ることから始める。一人ではできないことも、仕事をリタイアされたシニア・シルバー世代の方など、ノウハウをもった方がたくさんいらっしゃる。そういった方々と皆で何か作って売っていけるような組織づくりも目的の一つ。

(委員)

とても良い取組だと思う。包括的にさまざまなことが出来るのでは。今後、時間をかけて活動がより具体的になるよう、話し合っていけたら。

(会長)

活動するにもお金が必要となるので、この会で行うには無理がある。「さじ21」のような別団体の立ち上げが必要。

(事務局)

「さじ21」は第三セクターの団体です。参考になることがいろいろとあると思いますので、研究して情報を提供していけたらと思います。

(会長)

地域振興未来会議の広報誌を発行し、全戸配布することを考えていく必要がある。会議でどんなことを話しているのか町民の皆さんに知っていただきたい。また、頑張っている団体の紹介、委員の紹介なども広報していきたい。ご協力をお願いします。

(会長)

トスク用瀬店の閉店後の件についても、地域住民による「買い物環境を考える会」を立ち上げ、協議を行っている。

(委員)

会議の議論の中で出てきたことについて、協力できる部分があればぜひ一緒にやってや

っていければ。

(会長)

そう思っている。これから皆で考えていきましょう。

【空き家の有効活用（掘り起こしの調査結果について）】

- ・ 堺地域おこし協力隊から調査結果の説明
- ・ 12月1日（月）開催の住継ノートを使ったワークショップの案内

(委員)

民泊をしても良いよという方はいらっしゃるか。佐治でも取り組んでいるが、私自身が受入れてもいいなと思っている。

(地域おこし協力隊)

今住んでいる人がいる家の調査はしてないです。空き家調査の際にも、そこまで踏み込んだ話はしていないが、借りたいという人があれば貸しても良いという方はおられた。調査では、空き家の所有者の方は、その家をどうしていくのかまだ考えていない方が多い印象。

(委員)

かなり老朽化した家の有効活用としては、壊して更地にするという方法もある。
今後、地域の中でそういった家も増えてくる。

(委員)

空き家を紹介する際は、地域のハザードマップについてもきちんと説明が必要。

(委員)

このたびの調査で地元を一緒に周る中で、空き家活用にはさまざまな課題があると強く認識した。社地区にも101軒空き家があるが、実際に住めるのはその何割か。田舎は大きな造りの家も多く、これをリノベーションしようと思ったら、すごいお金がかかる。

家の終活をしないまま住人がおられなくなり、屋根瓦が落ち、朽ちて動物が入ってくるなどの状態になってしまう家が増えてくるのではと危惧する。

先日、田舎の大きな空き家を何十円、何百円で売りに出すというテレビ番組をやっていた。その値段で手に入れてもその後の維持管理、また壊すにしても高いお金がかかってくる。

家の終活はとても大切。今、用瀬町の2割が空き家で、これからも増えてくる状況のなかで、良い活用のアイデアを考えていけたら。今後の大きな課題。

(委員)

行きつくところはお金の話になってくる。更地にするにしても修繕するにしても数百万必要。自分は仕事柄、空き家で不要になった建材などリユース品をもらうことがある。朽ち

た家には誰も住まないが、ビンテージ的価値があって再利用できる物がある場合がある。

民泊については、ランニングコストがかかるとしんどくなってくる。例えば、鮎の季節は利用者があるけど、他の季節は全くないといけないので、シーズンを通した需要を何人かで共有し合うなどの方法がある。

(委員)

朽ちている家がずっとあるのを何とかできないか。行政代執行もそんなに簡単ではないと思うが。また、1人暮らしでいるが民泊しても良いよという方の組織づくりをするのも良い方法。しかしどう作れば良いのかが分からない。行政がどれだけ支援できるか知りたい。

(地域おこし協力隊)

危険空き家については、行政代執行以外に、年何件という上限はあるが、「鳥取市空き家等除却事業費補助金」の制度がある。危険空き家の除却、そうならないための取組と空き家の有効活用はどちらが優先ということではなく、両輪でやっていかななくてはならないこと。

(事務局)

民泊について。

佐治は「五しの里地域協議会」で民泊を行っているが、智頭や河原とも協力して受け入れを行っている。佐治も高齢化などで受入家庭が少なくなっている中で、民泊の要望は多くある。そこで、用瀬町で民泊に興味がある人を紹介して欲しいとの話があった。まずは説明をさせていただきたいと。

佐治は農家民泊が多いので、そういうイメージで何件かに打診してみたがお断りをされているところ。もし興味がある方があればまた説明を受ける機会を検討します。

(委員)

民泊でいうと、修学旅行生であったり、日本文化に興味のある外国人であったり、誰を泊めるかで、どこまでサービスを提供するのか変わってくる。

また、空き家は代執行になる状態になる前に手をつけるべきだと思うが、税金頼りだとこれから人口がどんどん減っていくなかでは立ちいかなくなっていく。違う形の財源での解決方法をさぐっていかないと。

(地域おこし協力隊)

人口は減っていき、空き家は増えていく現状の中で、すべての空き家に何か対応をするのは現実的ではない。全国的にも空き家は今 900 万軒と言われている。まずは一つずつ、例えば地域の顔となるような空き家のリノベーションを一軒やってみるとかから始めていってはどうかと考えます。

(委員)

先日、社会福祉協議会の研修で介護事業所「なでしこ」が改修して使っている家を見学に行った。台所などしっかり綺麗にリノベしてあり、近所の方がお茶を飲みに寄られることも

あると聞いた。用瀬に来てくれる人が増えるような活用方法が増えていけばいいなと感じた。

(委員)

矢井田 瞳さんとコラボした「いつでもここで～みんなのための鳥取市のうた～」はどのように活用しているのか。

(事務局)

支所ロビーで流しています。

(3) その他報告事項

①景観計画改定に伴う用瀬町の重点区域検討について（事務局）

9月17日 用瀬地区区長会での用瀬地域「流しびなの館並びに瀬戸川エリア」の景観形成重点区域の追加（案）についての説明結果

⇒良い話ではあるが、規制のことなどもあり今回の改定での位置づけはなしとする。継続して検討していくこととする。

②地域振興未来会議の広報委員会について（会長）

地域振興未来会議の広報委員会を作りたいが賛同いただけるか。

⇒賛同し、協力いただける委員で取り組んで行く。

■次回日程について ⇒ 11月20日（木）10時から

5 各課事務連絡⇒なし

6 閉会